

2021 祈りの灯火東日本大震災から10年

東日本大震災10周年行事

「祈りの灯火2010」

「牛乳パックで灯籠を作りましょう」と滝沢市企画総務部企画政策課からの依頼が各学校にありました。本校では、ご家庭にお願いし、それぞれのご家族の震災の記憶をお子様に語り継ぐ日になればと、呼びかけを行いました。

各家庭の取組 祈りの灯火



ある朝、低学年の女の子が灯籠を手に、保健室前で検温とマスクの貸し出しをしていた校長先生のところにやってきました。すると「校長先生、わたしのお父さんとお母さんは3月11日に、釜石にいたんだって。おうちは大丈夫だったけれど、お仕事していたところがみんな津波で流されてしまったの。それでとっても悲しくて、とってたいへんで、すごくがんばったんだって。だから、祈りの灯火のお手紙とメールを見て、家族みんなで作ろうねって作ってきました。」と灯籠を手渡してくれました。

親子で顔を寄せ合い、東日本大震災の記憶をお子様に語りながら、一緒に丁寧に灯籠を作ってくれた様子が目に浮かびました。子どもの心に沁みたのでしょう。その様子をよどみなく話す低学年の女の子の様子から、家族としてとても大切な時間を過ごされたことがわかりました。

2週間の取り組みで、317枚の灯籠が集まりました。 ご協力に深く感謝しております。「祈り」「絆」「幸せ」「いのち」「魂」の文字がたくさん描かれていました。デザインも切り込みも工夫され、素晴らしいものばかりでした。手にするたびに驚きと感嘆の声がもれました。すべてを紹介できないのですが、3月11日をみんなで忘れずに生活するために、いくつかコピーをと、り2階保健室前廊下に掲示しています。



素敵な言葉が
たくさんある
ね。

みんなの祈りが
感じられるね。

3月11日の放送委員会による朝の放送です。

「みなさん、おはようございます。今日、3月11日は、東日本大震災から10年を迎えます。鶺鴒小学校でも帰りの会の後、地震発生時刻の午後2時46分から1分間、黙とうを行います。鶺鴒小学校でもみんなで3月11日に起きた大震災のことを知り、お亡くなりになった方々の魂を弔い、震災から得た教訓を確認し合い、これからの日々を大切にすることを新たに誓う1日としましょう。」

昼の時間の放送でも、放送委員会の放送がありました。全校みんな静かに聞き入っていました。地震発生時の黙とうの前には、教務主任の高久和則先生からお話があり全校で「いのち」を考える機会となりました。

感謝のことば

【保健室前掲示板に寄せられた言葉から】

おかあさんへ
いつもおいしいごはんを
つくってくれて
ありがとう。大好き。

おにいちゃんへ
いつもおこつたり
するけど、
あそんでくれて
ありがとう。

おねえちゃんへ
いつもおこつてごめん
なさい。これからなかよく
しようね。

家族へ
いつもありがとう。
これからもよろしく。
ご飯作ってくれて
ありがとう。
めっちゃおいしいよ！

●●●へ
いつも家で遊んで
くれてありがとう。
中学校に行っても
がんばってね。

東日本大震災によりかけがえのない命を失われました御霊と

ご家族の皆様に対して深く哀悼の意を表します。

また、被害に遭われた多くの方々々に衷心よりお見舞い申し上げます。

皆様のご安寧と岩手県の一層の復興を心よりお祈り申し上げます。

震災から十年の月日が経ちましたが、私たちは震災の記憶を風化させる

ことのないよう寄り添い続け、ともに歩み続けることをお誓い致します。

令和三年三月十一日

公益社団法人日本PTA全国協議会会長 清水敬介

【メールが届きましたのでこの校報でお知らせします】

◇◇◇たくさんの方々に見守られて◇◇◇

鶺鴒小学校教育振興協議会のみなさんに、6年生を送る会での子どもたちの様子を見ていただいたあとに、感想をお聞きしました。保護者や地域の方々のおかげで、すくすく育つ子どもたちです。

「一人一人の話し方は、マイクがなくても大きく響く声を出し感心した。すごい。素晴らしいと感激して参加した。とてもよかった。」

「コロナで様々な制約がある中で、日々成長していく子どもたちの姿をみることができました。授業参観もよかった。それぞれの学年の一生懸命な姿に心打たれました。」

「かわいらしくて立派で、鶺鴒の子どもたちの元気で明るい未来を感じることができた。地域住民の一人としてこれからも見守っていきたい。いろいろな場面で感謝の気持ちがあふれていて、これは自然に育っているのではなく、感謝の心を先生方が大切に育てているからとよくわかりました。」

「見ていて気持ちがいい。感謝の気持ちを忘れず心優しく育ててほしい。」

「鶺鴒の子どもたちとのかかわりで、自分が元気になっていきます。」

「感謝を伝えるように先生が教えてくれているのだと思う。スクールガードをしている自分に、1年生が毎日『いつも見守りありがとうございます』と言葉をかけていく。学年が進んでも素直な心を育てていきたい。コロナで親も大変だったと思うが、学校への協力に感謝しています。」